

平成 23 年度第 2 回豊橋市立小・中学校通学区域審議会 会議録要旨

- 1 開催日時 平成 24 年 3 月 12 日（月）午後 4 時～午後 5 時 30 分
- 2 開催場所 豊橋市役所東館 8 階 東 84 会議室
- 3 出席者 委員 朝倉由美子（委員長）、金仙宗哲（副委員長）、堀田伸一、杉浦正和、
安田直樹、小松利恵、村川博美、村松伸郎、曾根英臣、 ※敬称略
事務局 加藤正俊（教育長）、石黒拓夫（教育部長）、鷺坂浩孝（教育部次長）、
加藤喜康（教育政策課長）、宮崎正道（学校教育課長）、

4 欠席委員 無し

5 議 事

進行：朝倉委員長

1) 特定地域隣接校選択制アンケート結果について

（教育政策課長より説明、質疑等は下記のとおり）

○主な意見、質問

<委員>

20 歳代から 70 歳代と幅広くアンケートを取っているの、若い世代と高齢世代との違いがあれば教えて欲しいですが、出していますか。

⇒年代別でも算出していますが、結果はほぼ同じ状況になっています。

<委員>

「課題はあるが、現在の特定地域隣接校選択制を継続する」という意見が多いですが、この課題とは何でしょうか。

⇒何度も地元に入り、話し合いをする中で、課題は明らかになってきています。

子ども会行事に参加する際のお金の問題、自治会への加入の問題、成人式の問題などが課題としてあがってきています。これら課題については、地元と協議しながら解決を図って行きたいと考えています。

<委員>

校区ごとにおける回答で、課題等に対する意識の差など傾向はどのように分かれていますか。

⇒この制度におけるメリットについては、若干の違いがありました。選択制を利用できる吉田方校区では、通学距離が近くなったという回答が多かったですが、松葉・花田校区については、学校がにぎやかになった、活性化したなどの回答が多かったです。問題意識については、あまり差がありませんでした。

<委員>

自治会に加入していない人がいるとのことでしたが、回覧板などはどうしているのでしょうか。

⇒自治会に加入していないと自治会によって対応は若干異なりますが、基本的に回覧板などは

周ってこないですので、それ以外の方法で情報を取りに行く必要があります。ただ、自治会に加入することの必要性については、住民への説明会で配布しているQ&Aに項目を設けた上で説明をしています。

<委員>

選択制の吉田方校区と松葉校区を例に言えば、私は吉田方校区の住民ですので、選択制を利用して吉田方校区から松葉小学校へ行ってきている児童は、松葉小学校へ行ってきているという感覚です。全員が吉田方小学校へ通っていたら32学級を越えてしまうので、行ってかれてありがたいという気持ちが大いいます。

だから、アンケート結果では、校区外の行事に参加するときは受益者負担が良いとの意見が多かったですが、単純に受益者負担が良いと言うのではなくて、どのような経緯で行っているのかも含めて説明をしっかりとしていく必要があるかなと感じます。

⇒分かりました。

2) 学校規模の適正化に関する基本方針への提言 中間報告(案)について

(教育政策課長より説明、質疑等は下記のとおり)

○主な意見、質問

<委員>

児童一人あたりの学校配当予算があまりにも違いすぎるのが、衝撃です。過大規模校では、1人あたり8,132円で、過小規模校では、1人あたり44,278円になっていますが、この数字がそのまま出ると反響が大きいと思うのですが、今後もこのまま学校配当を行うのでしょうか。

⇒配当の仕方によると思いますが、配当のやりかたについては学校運営費検討委員会で検討を進めていることです。そして、ここに出てくる数字は、教員の給与など含まれていないものもありますので、このままでは、単純比較をできないと言えます。どこまで含めるかと言うことも検討をしなければならないと考えています。

<委員>

幸小学校では、選択制の利用が進んでいないので、選択制を利用できる地域の拡大などなんらかの方策を考えていく必要があると思うのですが、どうでしょうか。

⇒通学路の安全面や、受け入れができる学校の問題などから単純に地域の拡大ができるとは、考えていません。ただ、幸小学校で児童が多くなっているのは事実ですので、施設整備及び備品の整備なども含めて幸小学校の教育環境の向上を図っていく必要があると考えています。

<委員>

この問題は、都市計画など校区毎の人口動態なども含めて考えていく必要があると思います。教育だけの分野で議論をするのではなく、人口を増やすように誘導していくのか、減らすよ

うに誘導していくのかを総合的に考えて検討していく必要があると思います。

⇒教育課題検討会議の委員からも同様の意見をいただいておりますが、考慮して検討をしたいと思っています。

<委員>

現在の外国人児童数と震災による影響で避難して来ている児童数は何人くらいですか。

⇒震災による避難者は、20人で、石巻に多い状況ですが、市内各地に点在しています。

⇒外国人児童数は、市全体で小中あわせて平成20年度には約1,300人いましたが、23年度は、1,045人です。岩田小学校で見ると、総児童が約800人いて、内103人の外国人児童がいる状況です。

<委員>

通学区域の線引きを変えるという回答者が多くいたということですが、吉田方校区で、選択制を利用できる3町内（菰口町・新栄町・野田町）を花田や松葉校区への組み換えを行うと、花田や松葉小学校の児童数は多くなり過ぎてしまうのですか。

<委員>

多くなります。特定地域隣接校選択制を導入するときに、行政が地元は何度も入り、話し合いを行ってきました。その際に、地元としては、校区は割りたくないという結論になっています。ですから、新栄町自治会だけ花田校区へ行って下さいとは、言葉では簡単に言えますが、実際は難しいですし、選択制が一定効果を上げている中では、保護者としても今のままが良いかなと感じております。

<教育長>

選択制を行っている地域では、学校の中に連絡協議会のようなものを設置していくのもひとつの方法だと思います。中学校は、中学校を卒業した後も地域住民とともに生活をしていくわけで、私立の中学校へ通いながら居住している住民もいるわけなので、地域で生活をしているという意識を持って付き合いも行ってもらえれば良いかなと思いますし、そのような働きかけを行っていく必要があると思います。

岩田校区については、人数が大きく減少しているので選択制をやめてもいいかなと思います。

幸校区は、3、4年先を見れば児童数が減少するので、工夫で対応して行った方が良いと思いますが、今通っている子どもたちに対する解決策にはならないので、なんらか対応をしていかなければならないと考えています。